

秦野・蓑毛大日堂など4棟

秦野市蓑毛に残る歴史的建造物を守ろうと、市民有志でつくる「秦野みのげ文化の会」が奮闘している。いずれも国登録有形文化財の蓑毛大日堂と周辺の建物計4棟は修復が必要とされているが、費用が足りていないのが現状だ。同会は「地元には価値のある文化財があり、後世に残さなければならないことを知ってほしい」とし、修復のための寄付金集めなどに力を注いでいる。(井口 孝夫)

同会が修復・保存を目指しているのは、大日如来をまつる蓑毛大日堂と、蓑毛大日堂仁王門、蓑毛地藏堂、蓑毛不動堂の計4棟。大日堂は聖武天皇が奈良の大仏を建てる際の勅願所として742年に創建され、1729年に再建されたと伝わる。不動堂は17世紀末、地藏堂は18世紀前半、仁王門は19世紀前半に建てられたとされる。

4棟とも2017年に国登録有形文化財に登録されたが、長年の風雨や度重なる地震の影響で損傷が激しい。大日堂は通路がひび割れ、壁に隙間があるほか、地藏堂も柱がずれ、天井と壁に穴が開いている。大日堂だけで修復には2億円以上かかるとみられ、建物4棟を管理する宝蓮寺和尚の東島礼美さん(51)は不安を募らせる。「檀家だけで維持できるかは難しい。雨漏りもあり、このままでは(中に安置している)文化財も駄目になってしまわないか」と話す。

そんな中、貴重な建造物を守ろうと動きだしているのが同会だ。地域文化を後世に伝えようと2009年8月に結成。現在は秦野市民ら約130人で講演会の

守ろう地元の文化財

開催などを続けているが、会の中に仏像建物修復部会を設けて修復に向けた活動に力を入れている。大日堂を中心とした修復のための寄付金を集めているほか、「地元には価値ある文化財があることを知ってほしい」と、昨年1月から毎月第1日曜日に大日堂と不動堂などを無料開放。納められている木造五智如来坐像などの文化財に親しめるようにした。

こうした動きは市外にも

市民有志 修復へ奔走

開催などを続けているが、会の中に仏像建物修復部会を設けて修復に向けた活動に力を入れている。大日堂を中心とした修復のための寄付金を集めているほか、「地元には価値ある文化財があることを知ってほしい」と、昨年1月から毎月第1日曜日に大日堂と不動堂などを無料開放。納められている木造五智如来坐像などの文化財に親しめるようにした。

こうした動きは市外にも

伝わり、昨年10月からは星槎国際高校厚木学習センター(厚木市)の生徒が無料開放の日に合わせて建物を清掃するボランティア活動にもつながっている。同校は文化祭の売上金も寄付しており、同会も協力に感謝している。

ただ、こうした取り組みの一方で、地元住民には建造物の価値がなかなか周知されないのが実情だ。同会の統計によると、大日堂には多い日に1日で約100人が訪れるが、7割は秦野市外から。市外や県外の仏像や歴史に興味のある人が大半だった。

同会では雨漏りなどの細かい補修に努めているが、対症的な修復にとどまらず、寄付金も約80万円と道半ばだ。同会は定期的に発行している会報で寄付とともに、その歴史的な重要性も訴えている。

同部会長の小野文勇さん(69)は「建物と仏像は多くの人々が価値を伝えたから残ってきた。われわれが残していかなければいけない」と話している。



①地藏堂には木造十王像が並ぶ。市指定重要文化財だが、傷が目立つ。右奥に閻魔王像が見える。②秦野市蓑毛の蓑毛地藏堂。③江戸中期の1729年に再建されたと伝わる蓑毛大日堂。床や壁部分に損傷が見られる。④蓑毛大日堂の壁部分は損傷が目立ち、板が張られている。⑤秦野市蓑毛

作品が展示される。午前9時から午後5時まで(前後すべり)と呼ばれる作業がくが参加。農機具の歯に藁の束を通し、向きを整えたして龍を燃やす。(中尾 浩之)



友好の水「かりゆい」

厚木 日、

市と友好都市の正装「かりゆい」の着用を毎週土曜日に促す「かりゆい」写真。

議案が

愛川 が開

会第2回定例会した。保育園の安全対策として用にベストを購入約26万円などを019年度一般案や、消防団用アップ付き積載車計8議案を提は14日までの10主な日程は次▽6、7日